

高齢者の健康 ICTで管理

沼田町、奈良医大と連携協定

提携書を交わす(右から)細井学長、横山茂・沼田町長、梅田智広・MBTリンク社長



サテライトオフィス開設も

【沼田】町は、奈良県立医科大MBT研究所(奈良県橿原市)、MBTリンク(同)と産学官連携協定を結んだ。今月から情報通信技術(ICT)を活用して高齢者の健康状態を管理する事業を展開。町はそれら

の成果をまちづくりの指針「マスタープラン」に生かす考えだ。

MBTは医学を基礎とするまちづくりの略で、「まち」に医学の知見を入れることで、地方創生につなげようとする同大の概念。リンク社は構想実現のため、同大が2018年に設立したベンチャー企業で、同年から沼田町で実証実験を開始していた。提携に合わせ町内にサテライトオフィスを開設する。

「見守り支援」のシステムを構築する。将来的な医療費の抑制にも役立てる。

沼田町は道内有数の豪雪地帯で1人暮らしの高齢者も多い。昨年、独居の70代女性が落雪に巻き込まれて死亡した事故が発生するなど、高齢者の安全状況を把握する仕組みづくりが急務となっていた。

事業は来年3月まで実施。町などは、専用の腕時計などを65歳以上の町民30人に配布し、血圧や心拍、体温、歩数など日頃の健康状態を記録するほか、自宅の配電盤にセンサーを設置し、電力使用状況から生活の状況を確認する。異常があれば無料通信アプリ「LINE」で、家族に通知する。

町は事業結果を取り込んだマスタープランを策定し、20年度から基本設計に着手している町立高齢者住宅の計画に反映させることや、福祉施設とのデータの共有などを検討している。

10日に町内で開かれた協定書締結式で、同大の細井裕司学長は「高齢者の状態を遠方の親族と共有するなど新しい福祉の形がつかれる。全国でも先駆けのモデル事業になる」と話した。

(矢野巨)